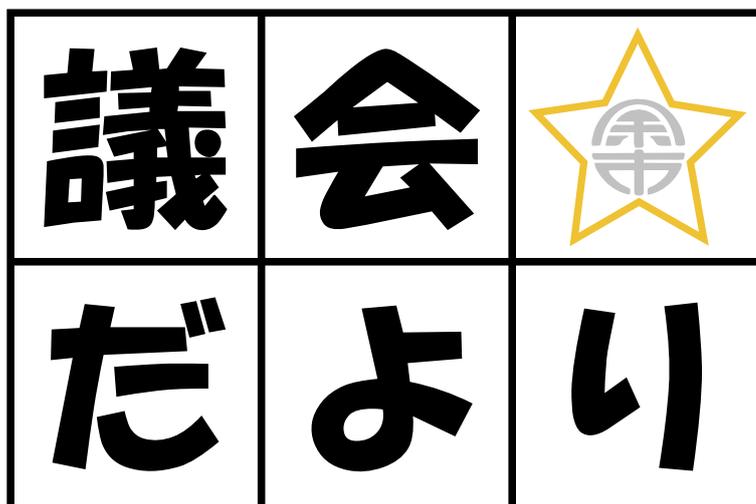


よいち町

2022.3
No.202



第4回定例会・第6回臨時会の審議結果

○審議結果 P 2～4

- ・令和2年度各会計決算を認定
- ・余市町手数料徴収条例等の一部改正、第5次余市町総合計画を特別委員会に付託
- ・行政報告

○要望意見書の審議結果 P 5

- ・地球温暖化、海水温上昇に伴う水産漁業被害の解明と支援策を求める要望意見書を可決

○常任委員会の動き P 6～7

○一般質問 P 8～11

- ・8議員が町政全般について12項目を質問

審 議 内 容

令和3年第4回定例会 第6回臨時会

令和3年12月14日～16日に開催の第4回定例会、11月19日に開催の第6回臨時会での審議結果についてお知らせいたします。



各会計決算特別委員会

各 会 計 決 算

- 令和2年度一般会計決算認定について
 - 令和2年度介護保険特別会計決算認定について
 - 令和2年度国民健康保険特別会計決算認定について
 - 令和2年度後期高齢者医療特別会計決算認定について
 - 令和2年度公共下水道特別会計決算認定について
- 第6回臨時会に提出された令和2年度の一般会計ほか4会計の決算は、令和2年度余市町各会計決算特別委員会（岸本好且委員長・大物翔副委員長）を設置、付託し、審査していましたが、第4回定例会で委員長報告のとおり認定しました。
- 令和2年度水道事業会計決算認定について
- 第3回定例会に提出された令和2年度水道事業会計の決算は、令和2年度余市町水道事業会計決算特別委員会（安久莊一郎委員長・内海博一副委員長）を設置、付託し、審査していましたが、第4回定例会で委員長報告のとおり認定しました。

令和2年度各会計決算

会 計 別	歳入決算額	歳出決算額	差引残額
一般会計	118億6,562万円	115億6,915万円	2億9,647万円
介護保険特別会計	24億2,056万円	23億5,760万円	6,296万円
国民健康保険特別会計	26億7,940万円	27億997万円	△3,057万円
後期高齢者医療特別会計	3億3,279万円	3億3,259万円	20万円
公共下水道特別会計	10億5,717万円	10億813万円	4,904万円

令和2年度水道事業会計決算

水道事業会計		
収益的・資本的	収入決算額	支出決算額
収益的収入及び支出	6億8,411万円	6億6,365万円
資本的収入及び支出	3億6,582万円	6億4,040万円



水道事業会計決算特別委員会

の	そ
案	の
件	他

□第5次余市町総合計画について

第4回定例会に提出された第5次余市町総合計画については、第5次余市町総合計画審査特別委員会（藤野博三委員長・大物翔

副委員長）を設置、付託し、審査を行っています。

□指定管理者の指定について

黒川町営駐車場及び黒川第2町営駐車場に（株）古垣建設を、余市あゆ場公園パークゴルフ場等及び余市町総合体育館及び余市運動公園有料公園施設を（株）東洋実業にそれぞれ指定管理者として指定しました。なお、指定期間は令和4年4月1日から3年間となります。

行政報告

□ニッカウキスキー（株）北海道工場の重要文化財指定について

【要旨】

ニッカウキスキー（株）北海道工場の重要文化財指定につきましては、令和3年11月19日に開催された、文化審議会文化財分科会の審議・議決を経て、重要文化財に指定することが文部科学大臣に答申され、指定名称は、「重要文化財ニッカウキスキー余市蒸溜所施設」となり、官報告示を経て、重要文化財建造物となるものです。

今回の指定は、令和元年度から同2年度に実施された、近代

和風建築物等総合調査により候補物の調査及び文化庁による現地調査が行われ、原材料の仕込みから蒸留、貯蔵まで、昭和初期のウイスキー蒸留施設として創業当初のたがずまいが保存され、国宝及び重要文化財指定基準のうち事務所棟、蒸溜棟、貯蔵棟など10棟が北海道における近代産業遺産として歴史的価値が高いものとして認められ重要文化財に、このほか3件が指定文化財と一体をなすものとして保存される、附（ついたり）指定の候補となりました。このたびの重要文化財への答申を受け、所有者であるニッカウキスキー（株）と連携を図りながら、適切な保存と活用を努めます。

議会を傍聴してみませんか

《次の定例会は3月上旬に開催の予定です。》

- ◆本会議については、役場3階の議会事務局で、傍聴人受付簿に住所・氏名を記入するだけで傍聴できます。
傍聴定員は38人となっており、会議当日の先着順となっています。
- ◆常任委員会や特別委員会については、委員長の許可を得なければ傍聴できないことになっていますが、プライバシーにかかわる審議など特別の事情がない限り傍聴を認めています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため傍聴される場合、次のことにご協力をお願いします。

- 議場への入場時に、手指の消毒をお願いいたします。
（消毒液は出入口に設置しています。）
- 議場ではマスクの使用をお願いいたします。
- 体調のすぐれない方（発熱、せき等）は、傍聴をご遠慮願います。
- 傍聴時の「密接」を避けるため、傍聴者数を制限させていただくことがありますので、ご了承願います。

※詳しい日程などは、議会ホームページをご覧ください。
（TEL 21-2132）へお問い合わせください。

議案に対する各議員の賛否一覧

地方自治法第96条で定める議決事件について、各議員の賛否結果が分かれた案件（欠席・退席含む）を掲載しています。

第4回定例会 議案に対する各議員の賛否一覧表

賛成：○ 反対：× 欠席：欠

件 名	審議結果	明政会					日本共産党議員団		よいち未来			公明党		新緑会			
		藤野博三	内海博一	庄巖龍	彫谷吉英	茅根英昭	近藤徹哉	安久莊一郎	大物翔	中谷栄利	山本正行	土屋美奈子	岸本好且	寺田進	白川栄美子	野呂栄二	吉田豊
令和2年度余市町水道事業会計決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	欠	○	○	○	○	○
令和2年度余市町一般会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	欠	○	○	○	○	○
令和2年度余市町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	欠	○	○	○	○	○
令和2年度余市町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	欠	○	○	○	○	○
令和2年度余市町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	欠	○	○	○	○	○
令和2年度余市町公共下水道特別会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	欠	○	○	○	○	○
専決処分事項の承認を求めることについて（令和3年度余市町一般会計補正予算（第7号））	承 認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
令和3年度余市町一般会計補正予算（第8号）	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
令和3年度余市町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
令和3年度余市町公共下水道特別会計補正予算（第2号）	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
令和3年度余市町水道事業会計補正予算（第2号）	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
余市町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
余市町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
余市町国民健康保険条例の一部を改正する条例案	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
令和3年度余市町一般会計補正予算（第9号）	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○

※中井寿夫議長は採決には加わりません。

要望意見書の審議結果

第4回定例会で提出のあった意見案についてお知らせします。

件 名	議案の提出者	審議結果	意見書の提出先
地球温暖化、海水温上昇に伴う水産漁業被害の解明と支援策を求める要望意見書	議会運営委員会委員	原案可決	内閣総理大臣ほか関係大臣 衆議院議長・参議院議長
北海道農業の基幹作物てん菜の生産を守ることを求める要望意見書	中谷栄利議員ほか1人	否 決	
新型コロナウイルス感染症における入院治療の対象者の重点化及びそれ以外の患者は自宅療養を基本とする対応を可能とする方針の撤回を求める要望意見書	中谷栄利議員ほか1人	否 決	

※全会派の同意が得られた要望意見書は議会運営委員会の委員が提出者となっています。

常任委員会の動き

閉会中における各常任委員会の活動状況について、主要な調査事項などをお知らせします。
各常任委員会の記録は、町立図書館に配置しておりますので、ご利用ください。

総務

文教

成人式の在り方について調査しました

【第3回】

(令和3年11月1日開催)

○成人式の在り方について(所管事務)

成年年齢を18歳にする民法の一部を改正する法律が令和4年4月1日から施行されることに伴い、本町独自の成人式の在り方について、対象年齢、開催時期はそれぞれ従来どおりの20歳、1月の成人の日の前日とし、名称は二十歳のつどいとなることなどの説明を受け、審議しました。

○余市町学校施設長寿命化計画の策定について(所管事務)

国が策定した計画に基づき、個別施設ごとの長寿命化計画を策定した、余市町学校施設長寿命化計画の素案について、実施されたパブリックコメントの結果について説明を受け、審議しました。

○令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について(所管事務)

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握、分析し施策の成果と課題を検証すること、児童生徒への指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的として実施する全国学力・学習状況調査の結果とその分析について説明を受け、審議しました。

○余市町総合計画の策定について(報告案件)

本町の将来に向けたまちづくりの基本的な計画を定めた「第4次余市町総合計画」が令和3年度で計画期間が満了となることから、策定作業を進めている「第5次余市町総合計画」の素案について、報告を受けました。

○余市町戦略推進マネージャーの活動について(報告案件)

余市町戦略推進マネージャー(2名)として委嘱している方の1年間の主な活動内容について報告を受けました。

【第4回】

(令和3年11月17日開催)

○ニッカウキスキー(株)北海道工場の重要文化財指定について(所管事務)

ニッカウキスキー株式会社北海道工場の重要文化財指定の概要について説明を受け、審議しました。(4頁行政報告参照)

○町税のインターネット収納利用状況等について(所管事務)

町税の納付環境の整備として運用しているクレジットカードによる納税システム、また、令和元年度から運用しているコンビニ納付の利用状況について説明を受け、審議しました。

○ふるさと納税について(報告案件)

余市町ふるさと納税応援寄附金の10月末現在における件数、金額及び返礼品の状況について、前年度と比較した内容の報告を受けました。

○使用料手数料の見直しについて(報告案件)

本町の使用料、手数料について、町民全体の負担の公平性や近隣自治体との均衡の観点、さらに受益者負担の適正化に向けた検討の必要性から作成された見直し方針について報告を受けました。

民生

環境

新型コロナウイルスワクチンの追加接種について審議しました

【第3回】

(令和3年11月5日開催)

○新型コロナウイルス感染症対策について(所管事務)

新型コロナウイルスワクチンの3回目接種について、医療従事者、施設入所者や入院患者、65歳以上の高齢者等の接種時期、接種券の発送・周知について説明を受け、審議しました。

○余市協会病院の救急医療体制について(報告案件)

近年の医師や看護師の都市集中により、常勤医師の確保が難しく、救急医療体制の維持のため、本年度においても北後志5か町村が財政支援を行うとの合意がなされた旨の報告を受けました。

○周産期遠隔医療に関わる実証事業への協力について(報告案件)

医療と健康をICTで支え、妊婦と赤ちゃんの安心・安全のための周産期プラットフォームの構築を目指す、メロディ・インターナショナル(株)が提供する周産期遠隔医療サービスにより、小樽協会病院及びおたるレディースクリニックの主治医が適当と判断する妊娠24週から35週の妊婦に対し行われる実証事業について協力する旨の報告を受けました。

を受けました。

○福祉灯油助成事業について(報告案件)

灯油価格の上昇傾向が続いていることから、余市町福祉灯油助成事業実施要綱に基づき、低所得世帯の生活安定及び福祉の増進を図ることを目的に福祉灯油助成を実施する旨の報告を受けました。

○余市町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について(報告案件)

特定教育・保育施設等の業務負担軽減や特定教育・保育施設等を利用する保護者の利便性向上を図る観点から諸記録の作成、保存等についてデジタル方式での対応を可能とする規定を追加する改正について報告を受けました。

○余市町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について(報告案件)

家庭的保育事業者等の業務負担軽減を図る観点から、諸記録の作成、保存等についてデジタル方式での対応を可能とする規定を追加する改正について報告



民生環境常任委員会現地調査

○余市町国民健康保険条例の一部改正について(報告案件)

令和4年1月1日より出産育児一時金に係る産科医療補償制度の掛け金の減額に伴い、本来分の支給額を引き上げる改正について報告を受けました。

○町営斎場の現地調査(所管事務)

委員会審議の参考に資するため現地調査を行いました。

産業
建設

道の駅再編整備について調査を行いました

[第4回]

(令和3年10月22日開催)

○道の駅再編整備について(所管事務)

新たな道の駅を核とする交流拠点施設整備に際して、新しい施設が備えるべき理念や機能などを整理するものとして、道の駅再編整備に係る基本構想の素案が示され、内容として、既存の道の駅の現状分析、議会やワーキンググループでの議論、新たな道の駅を核とする交流拠点施設の基本的な考え方として事業のメインテーマや基本理念と基本的な機能、交流拠点の整備に当たった際の官民連携の基本的な考え方、新たな道の駅による本町への波及効果、全国の類似施設の中で特に注目すべき事例、基本計画の策定に向けた検討の進め方並びに推進体制などにより構成されており、パブリック

コメントを実施するなどの説明を受けました。

本部の設置状況等について審議しました。

その後、用地取得上の影響、防災機能と再生可能エネルギーの活用、パブリックコメントの実施手法、既存の道の駅の取扱い、渋滞対策、町民交流の場の形成に関わるアイヌ文化の情報発信や町民利用の促進などについて審議しました。

○余市町水道原水の水質検査結果について(所管事務)

令和2年度余市町水道原水の水質検査結果について説明を受け、各検査項目の結果の詳細や、余市川流域の緊急事態に対する連絡体制、組織等について審議しました。

○令和2年度漁業生産高について(報告案件)

令和2年度の水揚げ量としては微減したが、主要魚種であるサケの豊漁などに伴い水揚げ額が前年度から約9700万円増額になった旨の報告を受け、各委員からは、サケの豊漁の要因について、赤潮の日本海側への影響について、ウニ、ナマコの水揚げ量の変化等について発言がありました。

○令和3年度余市町除雪計画について(所管事務)

余市町除雪計画は、余市町冬を快適に過ごす条例の趣旨に基づき、町内の町道をはじめとする道路等について、冬期間の交通を確保し、産業の振興と流通を確保するとともに、通学、通園をはじめとする町民生活の安全確保に努めることを目的に策定されており、除雪実施の体制については、平常時は除雪対策本部の下、日降雪量15センチ以上を目安として、午前1時30分に出動し、午前7時30分終了を目標にしていることなどの説明を受けました。

○余市町手数料徴収条例の一部改正について(報告案件)

その後、人口減少に伴う担い手不足を踏まえた除雪体制の見直し、流融雪溝のメンテナンスや空き店舗の対応、通学路の安全対策や協会病院付近の除雪体制、排雪の実施時期、豪雪対策

住宅の質の向上及び円滑な取引環境の整備のための長期優良住宅の普及の促進に関する法律等の改正による、余市町手数料徴収条例の改正について報告を受けました。

一 般 質 問

第4回定例会での一般質問は、8人の議員から12件の町政全般に対する質問がありました。一般質問は、一問一答方式により、質問、答弁を合わせ制限時間45分の範囲内で行い、議会だよりに掲載している内容の要約は質問した議員みずからが要約し、その原文を掲載しています。

大物 翔議員

(日本共産党議員団)

生活保護受給世帯への除雪費制度の周知について

質問 大物議員 2015年に生活保護法の実施要領が改正され、受給世帯が除排雪を有償で依頼する際、福祉事務所に申請を行えば費用が支払われる仕組みができたが、制度の存在を知らず、何年にもわたって扶助費から除雪費を持ち出し続けていた事例が町内で確認されたが、法改正の際、新たな制度の説明が民生委員の会議等で行われたのかについて伺いたい。

答弁 齊藤町長 平成27年10月の改正に伴い、同年12月に開催された民生委員協議会において説明がなされています。

質問 大物議員 福祉事務所から受給者世帯への制度周知などの有無について伺いたい。

答弁 齊藤町長 福祉事務所において毎年受給者宅を訪問した際に生活保護のしおりを配付し、制度の周知を行っていると同っています。

質問 大物議員 道の運営する

制度とはいえ町民が不利益を被る形となったが、町としては制度周知徹底を図る方法をどのように考えているか伺いたい。

答弁 齊藤町長 本制度の周知は受給者に対して行われるべきものであり、福祉事務所において実施されるものと考えます。

福祉灯油制度の対象

世帯拡大について

質問 大物議員 現在の要綱では70歳以上の独居者以外の生活保護世帯を対象としていないが、厚労省では、当該助成を受ける場合、支給対象者1人にも月8000円以内の額は収入認定としないことから制度上の制約はないが、対象を全生活保護受給世帯まで拡大した場合の費用について伺いたい。

答弁 齊藤町長 約420万円の費用増が想定されます。

質問 大物議員 ほとんどのケースで生活保護世帯を対象から外した理由について伺いたい。

答弁 齊藤町長 独居の高齢者の生活保護世帯については対象から外した世帯に比べ冬季加算が低い状況にあることから、対象世帯としています。

質問 大物議員 福祉事務所と

振興局からは冬期加算があるから福祉灯油の対象にしなくてよい理由にはならず、冬期加算の意味合いが灯油助成のためのもではないと聞いたが見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 生活保護世帯に関しては冬期加算はされており、その中で暖房費を賄っていただくという余市町のスタンスです。

茅根英昭議員

(明政会)

本町の教育行政

について

質問 茅根議員 教育行政執行方針にも人々の個性や能力を伸ばし、地域を支え続ける人材を育成することが教育の重要な役割とあるように、学力を高める方策と今後の対策を早急に行うべきと考えており、また、教育施設整備の今後の対策や方針に関わり、次の事項を伺いたい。

- ①学力向上の対策について。
- ②以前のPTA連合会での陰山氏の講演内容を本町の教育に反映させるべきとの声があるが、

どのように把握しているのか。

- ③全ての教育施設の築年数と今後の対策や方針について。
- ④教育施設を利用する方々の要望や意見への対応について。

答弁 前坂教育長 ①子どもたちが将来社会で自立して生きるために必要な基礎的、基本的な知識や技術の習得が必要であり、今後も継続して学力向上に関わる教育施策の推進を図り、北海道教育委員会と協議し、加配教員の配置をいただきながら授業改善等、習熟度に合わせたきめ細やかな指導の充実に努めます。

- ②陰山メソッドで有名な陰山先生を招き、教育実践事例などの講演をいただいております。
- ③黒川小築38年、沢町小築19年、大川小築49年、登小築27年、東中築41年、西中築37年、旭中築33年、中央公民館築42年、総合体育館築40年、あけぼのプール築48年、水産博物館築52年となっており、今後も適正な維持管理に努めます。
- ④予算要求時に児童生徒を対象にアンケート調査等を実施し、毎年学校としての要望を受けており、第6次余市町社会教育中期計画策定時には関係団体にアンケート調査を行い、さらに例年公民館利用者連絡会議で要望等を聞き、安全に直接関わるも

一 般 質 問

のを優先事項に対応しています。

質問 茅根議員 ①全国でも様々な学力向上に向けた取組があるが、町独自の学力向上の取組について伺いたい。

答弁 前坂教育長 ①ICT機器の活用が進んでいることから、ICTを活用した学力の底上げをしたいと考えます。

寺田 進議員 (公明党)

大川小学校、黒川小学校の通学路について

質問 寺田議員 大川小学校の通学路の南2線の大川町19丁目から20丁目は歩道が狭く、電柱も立っており、また、中通り2号線は踏切道が狭く、私の調査で朝7時半から1時間で車両160台と100人が通過し、さらに、黒川小学校の通学路の入舟山田線では山田川付近で歩道が左右入れ替わり、朝7時半から1時間で車両180台が通るが、横断歩道、通学路等の標識はなく、一部では縁石含め60センチしかない歩道も見受けられるが、現状の認識と今後の対応

質問 茅根議員 ④築年数が長い施設が多いが、教育施設のビジョンについて伺いたい。

答弁 前坂教育長 ④少子化が進む中、今後部分的改修で対応できないことも予想されるため、学校配置計画も含めビジョンをしっかりと持って対応したいと考えます。

応について伺いたい。

答弁 前坂教育長 中通り2号線と入舟山田線については各学校から通学路に係る危険箇所として提出をいただき、余市町通学路安全推進会議で対策を検討していますが、南2線の大川町19丁目から20丁目の通学路に関しては、学校から危険箇所としての提出はありませんが、教育委員会として道路幅が狭いと認識はしており、今後関係機関と連携を図り、安全確保に努めます。

質問 寺田議員 南2線の歩道のほとんどは側溝のコンクリートの蓋で、交差点も変則五差路で全く見えない場所もあるが、どう認識しているのか伺いたい。

答弁 前坂教育長 通学路としての利用も多いのですが、交通量も多く狭い部分もあるため、危険箇所も多いと認識しており、今後も関係機関や推進会議と十



中通り2号線の踏切

分情報共有し、連携を図り、子どもたちの安全確保に努めます。

質問 寺田議員 安全対策を組み合わせる国土交通省のゾーン30の取組について伺いたい。

答弁 前坂教育長 本町ではゾーン30の指定箇所はありませんが、中通り2号線は30キロ規制であり、通学時間は警察にパトロールを強化していただいています。

質問 寺田議員 ゾーン30プラズ整備の対応について伺いたい。

答弁 前坂教育長 推進会議の中に道路管理者、警察署が関係機関として入っているの中で、その中で問題提起し、検討します。

質問 寺田議員 中通り2号線の踏切道は、踏切道改良促進法の指定基準に合致するため、様々な補助が受けられると考えるが、町長の見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 形状変更は多額の事業費がかかりますが、今は道道昇格の議論があるため、関係機関と協議を重ね、事業化に向けた調査、検討を行います。

彫谷 吉英議員 (明政会)

小樽、余市間の風力発電施設の建設計画について

質問 彫谷議員 小樽と余市にまたがる毛無山周辺の国有林に建設を計画している風力発電施設について環境への影響や地域住民の賛成、反対の意見もあると考えるが、町長の見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 余市町としては、基本的に再生可能エネルギーを推進する立場にあり、本計画の事業化に当たっては地域住民の理解が十分に得られるよう丁寧な説明と誠意ある対応を

事業者に求めていきます。

質問 彫谷議員 CO2削減や自然エネルギーが昨今うたわれており、それに伴って太陽光発電や風力発電が急速に進展しているが、自然エネルギーに対してどのような思いを持っているのか伺いたい。

答弁 齊藤町長 町としても再生可能エネルギー、自然エネルギーを推進する立場にあり、私自身もオフカーボン、CO2の排出削減には非常に前向きで、賛同する立場にあります。

質問 彫谷議員 計画に反対する小樽と余市の町民団体が計画の中止を求めており、小樽は慎重姿勢を示しているが、町長は計画を是認するのか伺いたい。

答弁 齊藤町長 本事業計画については、事業者で住民に説明するように求める立場です。

町営斎場の建設について

質問 彫谷議員 町営斎場の建設については長年の課題であり、現在の町営斎場も老朽化し、長年大規模改修なども行っていないため、大規模な災害が発生した場合には使用が厳しくなるおそれがあり、町民は早く斎場を

一 般 質 問

造ってほしいと願っているが、以前、町長から話があった約4億円の支出について、その支出経過と設計業者への対応について担当弁護士とこれまでどのようなやり取りをし、今後どのような対策を取るのか伺いたい。

答弁 齊藤町長 町営斎場建替事業の支出経過は、基本計画策定業務に約160万円、設計業務に約2600万円、工事に約3億6000万円、その他管理業務等に約1700万円を支出しておりますが、現在梅川を含め適地選定業務を実施しており、その結果を踏まえて建設地を決定しながら対策等について検討しますが、担当弁護士と連絡を取り合っているかに関しては事務の適切な執行に支障を来すおそれがあるため、この場での答弁は控えさせていただきます。

岸本好且議員 (よいち未来)

高齢者等単身向け住宅の整備について

質問 岸本議員 高齢者の方が

住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる住宅の環境整備は重要なことと考えるが、今後、高齢者等単身向け住宅を増設する計画について伺いたい。

答弁 齊藤町長 本町が管理する公営住宅は569戸あり、そのうち60戸が高齢者等単身向け住宅となっており、本年11月末現在の入居戸数は54戸で、今後においては人口減少等を勘案し、余市町公営住宅等長寿命化計画の中で高齢者等単身向け住宅の戸数を設定していきます。

質問 岸本議員 高齢の単身者が非常に増えており、収入面で町営住宅を希望する人が多いが、いろいろな条件や距離的なことで申込みまでいけずに困窮している町民が多いと考えるが町長の見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 福祉部門でも調べて、困窮している状況はないと聞いていますので、何かあれば個別具体的に相談いただければと思います。

質問 岸本議員 民間賃貸住宅への入居支援について、今後制度をつくっていくことも必要と考えるが見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 公営住宅を自治体が管理する時代はもはや時代遅れになってきており、家賃補助のほうに理があればそちら

に切り替えていくべきと考えますが、社会情勢の変化や人口減少等を踏まえて供給量を全体の中で検討します。

町独自の出産助成事業の実施について

質問 岸本議員 出産、子育てまで支援し、家族全体の心身の健康、出産時の経済的負担をサポートすることは重要な施策であり、妊産婦の経済的負担を軽減するため健診、出産が近距離であつても北海道と同額の交通費を町独自で補助する支援策の実施について見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 安心して子どもを産み育てる環境づくりは大変重要と考えており、北海道の補助事業は距離要件を満たさず該当していないため、町独自の妊婦健診等への交通費助成は子育て推進に関する施策の一つとして前向きに検討します。

質問 岸本議員 北海道の基準は産前が14回、産後1回、出産時に1回の合計16回であるが、実現に向けて努力していただきたく、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 予算の許す範囲で前向きに取り組んでいきたいと考えます。

中谷 栄利議員 (日本共産党議員団)

余市町地域公共交通網形成計画について

質問 中谷議員 余市町地域公共交通網形成計画について、次の事項を伺いたい。

①(仮称)余市循環線の試験運行の結果と運行内容と修正について。

②郊外部の輸送方法の選定と運行内容の作成に当たったの取組について。

答弁 齊藤町長 ①1か月間で1435人が利用し、時間帯や曜日による利用者数の違いを現在詳細な分析を行っており、持続可能な路線とするため適切な運行便数やダイヤ等について、余市町公共交通活性化協議会の分科会での検討を踏まえ、具体的な運行内容案を作成し、協議会の合意形成を得た後に来年4月から本格運行を目指します。

②令和4年度に郊外部の地域ごとに懇談会を開催し意見を伺い、実証運行やその結果を踏まえ地域と合意形成を図り、本格運行につなげたいと考えます。

質問 中谷議員 ルートの見直しについて、高齢者問題や生活困窮の実態も踏まえてルートを設定するべきではないか。

答弁 齊藤町長 様々な意見を拾い上げ、適切なルートを設定するよう協議会で計画を練っており、最大限の需要を満たすようなルートで設定しています。

質問 中谷議員 郊外部の懇談会開催については現在どのようなように考えているのか伺いたい。

答弁 齊藤町長 令和4年度に行う以外は決まっています。

本町の文化財行政について

質問 中谷議員 北海道・北東部の縄文遺跡群が世界文化遺産に登録され注目されているが、本町のフゴツペ洞窟をはじめ縄文を伝えるものは全道に点在しており、後志関係自治体と協力し、さらなる埋蔵文化財公開など情報発信、振興が必要と考えるが、見解を伺いたい。

答弁 前坂教育長 小樽市との定住自立圏構想の下、圏域内の文化財、史跡などを保護し、活用を図る活動を実施しており、新年にも小樽市総合博物館の企画展として小樽、余市の縄文文

一 般 質 問

化が開催され、本町の縄文時代の資料が展示される予定です。
質問 中谷議員 インバウンドや国内にもアピールや振興策が必要と考えるが見解を伺いたい。
答弁 前坂教育長 現在、文化財と観光との結びつきがクロスアップされており、町と連携して観光振興や地域活性化の資源として大いに活用したいと考えます。

安久莊一郎議員

(日本共産党議員団)

学校教育におけるアイヌ

民族の学習について

質問 安久議員 2019年にアイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律が成立し、初めてアイヌが先住民族と規定され、また、2020年7月に民族共生象徴空間ウポポイが開業し、本町でも新たな道の駅再編整備の中でアイヌ文化の情報発信について検討されているが、人権、尊厳を無視し、研究のためとして違法な手段で遺体を盗掘され、いまだに謝罪はおろか



アイヌ民族関係資料の展示(水産博物館)

誠意さえ示されていないと平取アイヌ協会の木村三三夫副会長が歴史を語るなど、先住民族としての権利保障を国際水準に近づけることが急がれる中、教育の果たす役割は大きいと考えるが、アイヌ民族の先住民族としての権利が侵害されてきた歴史、特に同化政策について学ぶ取組は、小中学校でどのように行われているのか伺いたい。

答弁 前坂教育長 公益財団法人アイヌ民族文化財団が作成した「アイヌ民族…歴史と現在」という副読本を活用し、歴史や文化を学習しており、その中で先住民としての権利が侵害されてきたこと、同化政策がなされてきたことが記載されています。
質問 安久議員 本町のアイヌ教育の取組について伺いたい。
答弁 前坂教育長 副読本の活用のほか、小学校では余市水産

博物館を見学する学習会を設けている学校もあり、展示されているアイヌ民族資料の見学を実施し、中学校では旅行的行事の際に民族共生象徴空間ウポポイを見学するなど、アイヌ民族の歴史や文化の学習をしています。
質問 安久議員 学校教育の中でも博物館でアイヌ文化の展示物を見るだけではなく、先住民族としてのアイヌの生活そのものを考えていく取組をするべきと考えるが見解を伺いたい。

答弁 前坂教育長 アイヌの

白川栄美子議員

(公明党)

3歳児健診及び就学時健診

における視覚検査について

質問 白川議員 子どもの目の機能は3歳頃までに急速に発達し、6歳から8歳頃までにはほぼ完成し、生涯の視力が決まると言われるが、3歳児健診の視力検査の一次検査が家庭で行われるため、視力検査時の応答が正確ではないことから、多くの弱視が見逃されており、3歳児時点で異常が発見できた場合、治療によって十分な回復が見込

方々の過去の歴史や伝統、文化に十分配慮された内容で授業が行われていると認識しています。
質問 安久議員 アイヌ民族の学習に取り組む際、当事者の生の声を聞くことが非常に大事だと考えるが見解を伺いたい。

答弁 前坂教育長 昨年度登小学校においてアイヌ民族に造詣の深い方をゲストティーチャーにお招きし、総合的な学習の場で学びを深めており、アイヌ文化を知る上で非常に重要と考えます。

名、精密検査の結果要治療、要経過観察になるのは一、二名です。
②現在行っている視力検査の充実を図りながら、導入自治体の状況を注視します。

質問 白川議員 家庭で行う検査は子どもが騒いだり、検査の意味を理解できず、また、3歳くらいだと目の見え方の悪さや異常などを親に表現できず、適正に判断する材料にならないと考えますが、見解を伺いたい。
答弁 齊藤町長 日常生活で親が気づく事態は多々あるのではないかと想像することからアンケートは一定程度の効果があると考えます。

質問 白川議員 就学時健診時の眼科検査はどのように行われ、異常が発見されるケースはあるのか伺いたい。
答弁 前坂教育長 余市医師会を通じて眼科医の派遣をお願いし、翌年度入学する児童を対象に毎年10月に実施しており、令和3年度の実施結果は1人が異常ありとの診断結果でした。

が、次の事項について伺いたい。
①3歳児健診時の眼科検査はどのように行い、異常が発見されるケースは毎年のどのくらいか。
②3歳児健診の屈折検査導入の考え方について。
答弁 齊藤町長 ①事前に視力検査紙と目に関するアンケートを保護者に送り、家庭での視力検査をお願いしており、精密検査の対象者は年に3名から5

質問 白川議員 3歳児健診で見逃される就学時健診時に影響が出るため、町部局と連携、情報交換するべきではないか。
答弁 前坂教育長 町部局の担当者と連携は取っており、今後関係は維持したいと考えます。

余市町議会に関する 町民アンケートを実施します

余市町議会では、議会改革や議員定数のあり方について議論をしていますが、このたび、議会に対する町民の皆様のご意見をお伺いし、今後の議会活動、運営の参考とさせていただきたくアンケート調査を実施いたします。

詳細は議会だよりと併せて配付される、アンケート用紙をご覧ください。

議会日誌

11月	22日	北後志消防・衛生施設組合議会
	28日	議会運営委員会
18日		議会運営委員会
18日		群馬県片品村議会視察来訪
19日		第6回臨時会
24日		後志町村議会議長会議員研修会
25日		水道事業会計決算特別委員会
29～30日		各会計決算特別委員会
12月		
1日		各会計決算特別委員会
3日		議会運営委員会
13日		議会運営委員会
14～16日		第4回定例会
16日		議会運営委員会
16日		手数料徴収条例等審査特別委員会
16日		第5次余市町総合計画審査特別委員会
	1月	
	19日	議会運営委員会
	24日	手数料徴収条例等審査特別委員会
	2月	
	4～9日	第5次余市町総合計画審査特別委員会
	10日	議会運営委員会
	10日	北しりべし廃棄物処理広域連合議会
	14日	産業建設常任委員会
	15日	民生環境常任委員会
	16日	後志町村議会議長会定期総会
	17日	総務文教常任委員会

編集後記

新型コロナウイルス感染症は、2年の間に世界中で確認され、感染者は増え続けています。町民の皆様はワクチン接種、三密を避けること、マスク着用、手洗い、手指の消毒、換気等に注意深く予防をしていますが、新型コロナウイルスはデルタ株からオミクロン株へと変化し、今年に入り世界中に急激に蔓延している状況です。日本も第6波が襲来し、いまだかつてない感染者数の増加により、まん延防止等重点措置が再度実施されており、日本の経済損失は2兆円とも言われ、私たちの生活にも多大な経済的影響が出るのが想定されます。

さきの第6回臨時会では新型コロナウイルススワクチン接種対策事業費等を含む補正予算を議決しました。

また、第4回定例会では令和2年度の各会計の決算を認定、補正予算では障害者福祉サービスクラス等給付費約1億円をはじめ、余市協会病院救急医療体制維持補助金等の補正予算を議決するなど、町民の皆様の生活に関わる重要な議案を審議しております。

新型コロナウイルス感染症が一日でも早く終息することを願ひ、平穏無事な日々を取り戻すことを信じております。

総務文教常任委員会
副委員長 内海博一